

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2014.1.10 (金)
No. 207

特別教室へのエアコン設置検討する

これで良いのか 館岩に医務室設置の計画なし

12月9日と10日の両日、さいたま市教組は市教委と団体交渉を行いました。61項目に及ぶ要求項目の中から、主に重点項目に絞っての交渉でした。市教委からは教職員課、教育総務課、指導1課、指導2課、教育研究所、高校教育課、健康教育課、学校施設課、館岩少年自然の家、教育財務課の各課長が対応しました。

◆教育財務課関係の要求
「児童生徒の机と椅子の損傷が激しく、現物支給すること」

【回答】小中学校から3000万円相当の施設改善要望がある。1500万円の予算があるが学級数の増加が思っている以上に多く、1500万から取られている。10月から11月にかけて学校調査した。天板と座板は交換することができる。交換作業は業者に依頼することができると要望している。

◆今後4年間で特別支援学級を64校に新設して設置率を78%にする計画だが、施設設備を充実して欲しい。

【回答】新しく設置する特別支援学級に対しては別立ての予算がある。

【解説】設置率が高まることは重要だが、専門性を身

につけた特別支援学級担任が確保できるかが重要だ。「教育は人なり」とも言われる。専門の知識と技能を習得した教員を確保することが必須条件と言える。

◆学校施設課関係の要求
「特別教室にエアコンを設置すること」

【回答】昨年までは慎重に考えていたが、今後も夏場の猛暑日は続くと考えている。設置に向け検討している。理科室や図工室等、教室の種類や数を考えて検討する。できるなら、来年度から着手したい。

大規模解消も少人数学級実施も

具体策無い無責任の極み

◆教育総務課関係の要求
「大規模校(学級数31以上)を解消すること」

【回答】現在、大規模校は小学校5校、中学校1校の計6校。町の中では土地の確保が難しい。

◆組合の追及に対し、大砂土東小学校は土地を確保したが、学校建設の隣接地の区画整理の進捗状況は約28%。区画整理完了は2017年(平成29年)から2018年(平成30年)で、学校建設にはさらに4年程度要するので、約10年待たないと解消されないことが明らかになりました。少人数学級実現の要求に対し、

「まずは大規模校の解消が優先」と回答してきた市教委の無責任さが浮き彫りになりました。組合は大規模校の解消はもちろんのこと、少人数学級の実現を要求し、市の対策を抜本的に見直すことを求めました。

◆館岩少年自然の家関係の要求
「赤城は補助金で交通費がまかなえているが、館岩は保護者負担がある。同じ小5で、差が出るのはおかしい。交通費は全額補助金で負担すること。また、

看護師の配置や同行を実施すること」

【回答】交通費は一人当たり3000円補助している。その額を超えると、負担してもらおうことになる。補助金の確保に努力している。

◆組合は小5と中2の宿泊学習が館岩に一本化される問題について追及しました。本来、行事等の教育課程は各校が決める事柄です。施設の使用を強制するのは問題です。一つの施設に市内の全校が組み込まれると、学校の予定がどんどん窮屈になってきます。また、児童生徒の安全と健康管理の

ためには医療スタッフを常駐させるべきです。さらに館岩一本化時のスタッフが14人では安心・安全が確保できるか不安です。スタッフを増員すべきです。

【回答】一本化したときのスタッフを14人以上にするのは難しい。基本計画を立てる際に医務室等については考えられる。

◆教育総務課関係の要求
「労働安全衛生法(労安法)で定めている教職員の始業と終業時間の管理を徹底するために、タイムカードを導入すること」

入は考えていない。◆教職員の長時間過密労働は解消どころか激しさを増していることを告発しました。若い教員ほど朝早く来て、夜遅くまで働いている。若い教員へのアンケートに対して、「健康に不安がある」「定年までやっているか分からない」「月の半分は土日に出勤して○付けや教材準備をしている」と答えています。労安法が守られていないのが実態です。【回答】「安全や健康の確保は重要なこと」。◆具体的な対策が示されないのは非常に問題です。

4年後 館岩に一本化

2013年8月23日に開催されたさいたま市の第9回都市経営戦略会議の議題は、自然の家の一本化です。現在、小学校と中学校が利用している少年自然の家は、2018年(平成30年)、館岩に一本化されます。現在の館岩は36部屋360人規模ですが、20部屋200人規模を収容する新館を建設します。その結果、部屋数56部屋、収容人員560人の施設になります。2014年(平成26年)調査・基本設計、2015年(平成27年)実施設計、2016年(平成28年)〜2017年(平成29年)建設、2018年(平成30年)4月から利用開始、という計画です。調理場は現在の1カ所、食堂は現在の館と新館それぞれに設けます。市内の全小学校103校が5月から10月にかけて利用、1月から3月までは中学校57校が利用する計画です。それに伴い、六日町、赤城少年自然の教室、ホテル南郷は使用中止となります。館岩の管理運営は市の責任ではなく、指定管理者制度を導入することも検討されています。また、配置する職員は、現在の館岩の配置職員12人に2人を増員した14人体制です。この職員数で最大2校同時利用に対応するというもので、病人や事故等の負傷者が出た場合の対応は詳細不明です。計画では医務室が設置されるか定かではありません。かねがね組合が要求している看護師等の医療スタッフの配置は考えられていません。現場無視で計画は進められています。

